

旧下田中学校・旧中医学研究所 有効活用案のまとめ方について

1 有効活用案のまとめ方

旧下田中学校・旧中医学研究所有効活用基本方針にもとづき、下記「2 評価基準」の5項目において評価を行い、評価結果を基に検討会の協議の中でまとめていくこととする。

2 評価基準

(1) 地域貢献

当該施設が地域コミュニティの場として活用できるよう、地域への配慮や地域活動への貢献などにも配慮する。

【判断基準】

活用する施設が、地域住民等の地域コミュニティの場として、必要な時に地域住民が利用できるか又は地域のコミュニティ活動に対して協同、連携など地域に貢献することができるかどうか。

◎ とてもできる・・・常時利用できる。地域活動への貢献が非常に期待できる。

○ できる・・・・・・事業実施主体と調整し利用できる。地域活動への貢献が期待できる。

△ あまりできない・・・あまり利用できない。地域活動への貢献も期待できない。

(2) 被災時の防災活用

現在地域防災の拠点施設としても利用されている実情を踏まえ、利活用後も災害時において防災拠点として利用できるよう機能を確保する。

【判断基準】

活用する施設が、災害時等の有事の際に、指定避難場、指定緊急避難場所としての活用や、地域の防災活動拠点として利用できるかどうか。

◎ とてもできる・・・事務所等の一部を除いた施設全体が利用可能である。地域の防災機能の強化に大きく貢献できる。

○ できる・・・・・・施設の一部は利用できる。施設の一部しか事業に使用しない場合、空いたスペースは利用可能(他の事業活用による)である。地域の防災機能の強化に貢献できる。

△ あまりできない・・・運営上又は施設の設備機材の都合上あまり利用できない。

(3) 妥当性

事業の運営体制、経済波及効果、雇用機会の創出、行政需要への対応などを総合的に勘案し、事業の必要性、実現性を判断する。

【判断基準】

事業の運営主体となる事業者やその運営能力が確立されているか、事業を行うことで地域経済に波及効果があるか、地域雇用が創出されるか、行政課題等の解決に繋がっているか等を総合的に判断。

- ◎ 事業実施に非常に妥当性がある
- 事業実施に妥当性がある
- △ 事業実施に妥当性が少ない

(4) 市計画との整合

市の上位計画との整合を図る。

- ① 四万十市総合計画
- ② 第1期四万十市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ③ 四万十市都市計画マスタープラン
- ④ 四万十市公共施設等総合管理計画
- ⑤ 四万十市立小・中学校再編計画（第2次）

【判断基準】

上記5つの上位計画との整合性が図られているか（確認）

明確は◎○△の評価は行わない。

(5) 財政負担

市の財政負担や事業採算性を十分考慮しつつ、民間活力の活用なども含め検討することとし、新たな施設整備等が伴う場合、可能な限り国庫補助金等を活用し、財政負担の軽減に努める。

【判断基準】

整備事業費が抑制される活用方法となっているか。さらに国や県の補助事業や、交付税率の高い起債を活用できるか、又は民間資本等を活用した整備を行い、市の財源負担の軽減が図られるかどうか。

- ◎ 財源負担がとても少ない・・・改修費用等をあまり必要としない活用方法。又は民間資本の活用により市の負担が非常に少ない活用方法。国、県の補助更には有利な起債の活用により、市の負担する費用が概ね事業費の1/3以下の事業。
- 財源負担が少ない・・・・・・国、県の補助更には有利な起債の活用により、市の負担する費用が概ね事業費の1/2以下の事業。
- △ 財政負担が多い・・・・・・国、県の補助更には有利な起債の活用が見込めず、概ね事業費の1/2を超える市の負担が必要。又は、事業費が大きく補助等を活用しても市の負担が大きくなることが見込まれる事業。